

「アスファルト」★★★★★

2 0 1 6（平成 2 8）年 9 月 1 8 日鑑賞く
シネ・リーブル梅田>

監督・脚本・原案：サミュエル・ベンシェトリ
ジャンヌ・メイヤー（元女優）／イザベル・ユペール
スタンコヴィッチ（中年男）／ギュスタヴ・ケルヴァン
看護師／ヴァレリア・ブルーニ・テデスキ
マダム・ハミダ（アラブ系の女性）／タサディット・マンディ
シャルリ（1 0 代の少年）／ジュール・ベンシェトリ
ジョン・マッケンジー（宇宙飛行士）／マイケル・ピット
2 0 1 5 年・フランス映画・1 0 0 分
配給／ミモザフィルムズ

<団地を舞台に突拍子もない3つの物語が大展開！>

今年は「団地」を舞台にした映画が日本でもフランスでも大ヒット！日本のそれは是枝裕和監督の『海よりもまだ深く』（1 6 年）と阪本順治監督の『団地』（1 6 年）の2 本。他方、フランスのそれが、原題も『A s p h a l t e』、邦題も『アスファルト』と題された本作だ。『海よりもまだ深く』は阿部寛演じるダメ男を中心とした心温まる家族の物語だった。それに対して藤山直美が1 8 年ぶりに主演した『団地』は、前半も少しヘンテコだったが、後半からクライマックスにかけてはあっと驚くハチャメチャな展開になっていた。なるほど、団地を舞台にすればそこにはさまざまな人生模様や突拍子もない物語が生まれるわけだ。

1 9 7 3 年生まれのサミュエル・ベンシェトリ監督が、阪本順治監督のようにフランスの団地で生まれ団地で育ったのかどうかは知らないが、原案も脚本も書き自ら監督した本作では「団地」を舞台に突拍子もない3つの物語が大展開！

<マンション管理は民主主義の学校！>

都市問題をライフワークにしている私はマンションの管理をめぐる講演をすることがたまにあるが、その時の最大のテーマは「マンション管理は民主主義の学校」だということ。つまり、マンションの管理は管理規約を基礎にした民主主義的な話し合いがベースにならなければならないということだ。

本作冒頭、かなり古びた郊外の一棟の団地でエレベーターの入れ替えをめぐる住民投票のシーンが登場する。これは日本ならさしずめマンション内にある集会室か、それがなければどこかの「会場」を借りてやっている「管理組合総会」だが、本作では責任者らしき人の部屋の中でやっているから、それだけでビックリ。また、日本なら出席者の確認や議事録の作成、議事録署名人の指名等、管理規約に則ったさまざまな手続が不可欠だが、本作の議事はすべて口頭だ。また、責任者のリードで「E V の入れ替えに賛成の方は？」と進んでいくが、ホントにこれでいいの？ここで全員が手を挙げていればそれで住民投票は終了だったのだろうが、そこでたった一人だけ手を挙げなかった男がスタンコヴィッチ（ギュスタヴ・ケルヴァン）。「なぜ？」の質問に対する彼の回答は「ボクは2 階に住んでいる、E V は使わない」「使わないものにカネをかけるのは不合理だ」というもの。そこで、責任者は「しかし、みんなの団結は？」と畳み込んだが・・・。

もっとも、そこから先の議事の進行はお見事で、結局はスタンコヴィッチの主張が認められ、彼の費用を全員で負担してE V を入れ替えることになったが、その条件として、スタンコヴィッチはE V を使わないことを約束させられることに。なるほど、何ごとも本音で話し合えばそれなりの合理的な解決策が出てくるもの。そう感心していたが、サミュエル・ベンシェトリ監督が書いた脚本の面白さは、それからが本番・・・。

<バランスよく3つの物語が展開！>

冒頭のE V 入れ替えをめぐる議論はいかにもフランス的な議論だから、本作はシリアスな映画？一瞬そう錯覚しかけたが、その後の、同じ団地に住む1 0 代の少年シャルリ（ジュール・ベンシェトリ）が目覚まし時計で起き、自転車に乗って外に出て行くシークエンスや、刑務所の面会日にアラブ系の女性マダム・ハミダ（タサディット・マンディ）が収監されている息子に面会に行ったのに医務室に入っているとと言われて会わせてもらえず、差し入れすら拒否されるシークエンスを見ていると、アレレ、この映画は一体ナニ？さらに地球の周りを回るスペースシャトルの中で生活している宇宙飛行士ジョン・マッケンジー（マイケル・ピット）の姿や、シャルリの部屋の向かいに引っ越してきた元女優ジャンヌ・メイヤー（イザベル・ユペール）の姿、さらに夜勤の休憩中に看護師（ヴァレリア・ブルーニ・テデスキ）がタバコを吸って一休みしている姿を見ると、一瞬この映画はややこしそう思ったが、少し見ていると・・・。

本作は、これら3 人ずつの男女計6 人が織りなす物語だ。すなわち、①スタンコヴィッチと看護師、②シャルリとジャンヌ・メイヤー、③ジョン・マッケンジーとマダム・ハミダが織りなす3つの物語がバランスよく展開していくから、それに注目！そうは言っても、アメリカのN A S A のスペースシャトルがフランスの団地の屋上に不時着（？）し、ジョンがたまたま入った部屋がアラブ系の女性マダム・ハミダの部屋だったとは、何とハチャメチャなストーリー。もっとも、それでも阪本順治監督の『団地』で見た、奇想天外なラストの展開に比べればまだ常識的・・・。

<「負の連鎖」「三隣亡」の連続の中にもユーモアが・・・>

同じ日に観たフランス映画『ティエリー・トグルドーの憂鬱』（1 5 年）はまさにタイトル通りの「憂鬱感」いっぱいのものでしたが、本作に観る「負の連鎖」や「三隣亡」の連続という言葉がピッタリの男スタンコヴィッチには、どん底の展開が続いていくにもかかわらず、どこかユーモアがある。スタンコヴィッチが病院に入院し車椅子で戻ってきたのは、あの管理組合の責任者のリビングルームで見たエアバイクが欲しくなり購入した日に、いきなりそれを1 0 0 キロも漕いだためらしい。お前は、バカか！

車椅子で古い団地に戻ってきたら、E V は生活の必需品。しかし、あの時「カネを払わない代わりにE V は使わない」と約束した手前、E V は使いたくないが、背に腹はかえられない。そこでスタンコヴィッチが編み出した戦術（小細工）は？この年になってもなぜまだ独身なのかはわからないが、この男の生活能力の無さは明らかだから独身は当然、団地の住人がE V を使わない時間帯は深夜。そこでその時間帯を選んでひそかにE V を使って外に買い出しに出かけたが、スーパーはすべて閉まっていた（日本なら2 4 時間営業のコンビニがどこにでもあるが、この団地の周辺にはないらしい）から、やむなく病院の自動販売機でスナック菓子を購入することに。

そんな冒険（？）の帰りにスタンコヴィッチが看護師と出会ったのはすごいラッキー。その後の恋物語（？）が大いに楽しみだが、その後も次々とスタンコヴィッチに襲い掛かる不幸の連続に注目！まさにこれぞ「負の連鎖」「三隣亡」の連続だが、本作ではそんな最悪状態にもかかわらずどこかにユーモアがある。すると、苦難の果てにはひょっとしてロミオとジュリエットのような展開も・・・。

<有名女優イザベル・ユペールがなぜ本作に？>

私は本作に行くべきかどうか迷ったが、それは本作の監督はもちろん、出演者も有名女優イザベル・ユペールを除いて誰も知らなかったため。結果的に映画館まで行ったのは、新聞紙上ではそれなりの評価をしていたことと、イザベル・ユペールが本作に出演したのは、「脚本が面白かったから。監督が誰か、舞台がどこかは関係ない」と言っていたためだ。本作で1 0 代の少年シャルリを演じたジュール・ベンシェトリはサミュエル・ベンシェトリ監督の息子らしいが、1 9 5 3 年生まれのベテラン女優イザベル・ユペールとこんなややこしい関係になっても、父親は心配じゃないの？昔と同じヒロイン役で舞台に立つべく演出家の元を訪れながらそれに失敗し、酔いつぶれて帰宅したジャンヌを介抱するうちに2 人の間には年齢差を越えた「純愛」が成立しそうになるが、さてその展開は？

誰もがそう想像するところだが、本作では意外にしっかりした面を見せるシャルリが、ジャンヌに対して「1 5 歳の役ではなく、9 0 歳の役に立候補する」ようにアドバイスしたところから、意外な展開になっていく。なるほど、なるほど。どんな美人女優だって年をとれば演じる役柄が変化するのは当然。すると、シャルリと一緒にビデオで見た、ジャンヌの昔の出演作『腕のない女』では若さと美貌が売りだったが、今なら何が売り？さすが監督の息子だけあってシャルリのジャンヌに対するアドバイスや、演出家に送りつけるためにジャンヌの演技をビデオカメラに収める演出ぶりは堂にいったものだったが・・・。

<実の母親と息子以上の雰囲気になんか？>

日本語と英語を全然知らない人同士の会話は、全く通じない。しかし、日本語と中国語なら筆談を交えれば少しは会話できるし、英語とフランス語なら似たような単語も多いから身振り、手振りを交えればかなりの会話が可能。宇宙飛行士のジョンと、彼を部屋の中に入れたアラブ系の女性マダム・ハミダの会話を聞いていると、それがよくわかる。その結果、収監されている実の息子に会えなくとも、マダム・ハミダがジョンにベッドとパジャマを提供し、お得意の料理「クスクス」を食べてもらい、逆にジョンがキッチンの水漏れを修理する労務を提供しているうちに、マダム・ハミダとジョンの間には実の母親と息子のような雰囲気が・・・。

もっとも、N A S A のスペースシャトルが、いくら郊外にあるとはいえフランスの団地の屋上に不時着すれば大ニュースになるのは必至で、2 日間もそれを避けて何ゴトもなかったかのように再びN A S A に戻るというストーリーの設定はハチャメチャ。しかし、本作ではそのことに何の違和感も覚えず、寓話のようなストーリーに身を浸し、心の底から楽しむことができるから不思議だ。しかも、迎えに来たヘリコプターに乗ってジョンがN A S A へ向かった後、3つの物語を通じて底流に流れていたある不気味な音の正体も明らかにされるので、それにも注目！なるほどなるほど、こりゃ面白かった・・・。